

「要領がいい」と言われる人の、
仕事と勉強を
両立させる

時間術

佐藤孝幸

Is it really efficient... or actually inefficient?

Make it simple.

It dramatically improves your life.

by Takayuki Satoh



私は現在弁護士として仕事をしていますが、これまで米国公認会計士、司法試験、公認内部監査人、公認金融監査人など、いくつかの資格を取得してきました。

別に資格マニアというわけではなく、いずれも仕事の延長線上として、取得すれば仕事の幅が広がるだろうと判断してのことです。

そんなこともあり、資格試験を受ける人たちから相談を受けることがあります。相談内容で一番多いのは「**仕事をしながら勉強時間を確保するにはどうすればよいか?**」ということです。

勉強時間を確保するには、いくつか方法があります。

- ・仕事の効率を上げて残業を減らす
- ・睡眠時間を削る
- ・趣味の時間を減らす
- ・通勤時間などの隙間時間を利用する
- ・飲み会は参加しない

しかし、仕事の効率を上げるといってもどうすればよいかわからないし、睡眠時間を削れば勉強の効率は悪くなります。

時間を確保するだけなら仕事を辞めて勉強に専念できればよいのですが、その状況が許される人はかなり少数でしよ



う。

そこで、本書では仕事のムダを省き、結果に結びつく効果的な勉強法で、今までと同じ時間に倍の価値を与える方法をお教えします。

私が現在有している資格は、すべて働きながら勉強をして取得したものです。

本書を出版するにあたり、私自身の体験や私同様働きながら資格試験に合格した元同僚を観察するなどして、徹底的に効率を上げるための最大のポイントは何かを考えてみました。

そしてたどり着いた結論は、「身の回りのムダをできるだけ減らし、シンプルにしていく」というものでした。

ノートを取ったり、語呂で暗記したり、あるいは整理術だとかスケジュール管理だとか、IT ツールの活用……。

要領が悪いのは、これらをうまく活用できないからではありません。

ノートや手帳などのツールが果たすのは、あくまでも効率化の補助的役割です。

本書は、そうした小手先のスキルや楽をする方法の一種のアンチテーゼともなっています。

本当に効率化をしたいのなら、本来改善すべきは日々の仕事や勉強に費やす「時間」に対するコスト意識です。

目に見える部分ではなく、もっと本質的な部分で役立つ、実践すれば誰でもかけた労力がそのまま報われる時間の使い方をご紹介します。

そして、本書で述べるポイントをおさえて行動するだけで、目標までにかかる時間を最短にすることができますでしょう。

明日すぐに効果があらわれるということはないかもしれませんが、やればやるほど、心がければ心がけるほど、確実に変わっていくことは請け合いです。

ところで、一口に勉強と言っても動機や目的はさまざまでしょう。私のように資格取得を目指すのか、語学を習得したいのか、起業のためなのか。

また、ある程度勉強をしている人なのか、これからはじめる人なのかによって必要なことは変わってきます。

そこで本書では、大きく5つの章に分け、時間の使い方、考え方について説明していきます。

まず1章では「やる気と集中力を高める時間の捉え方」と題して、基本的な時間に対する考え方、モチベーションについて私見を述べていきます。



私が資格試験を目指しはじめたきっかけや、これまでの経歴などにも触れています。

2章「**残業が減る、6時に帰る仕事のやり方**」では、仕事に軸を置き、どのように業務を進めていくことで勉強に充てる時間を確保するのか、その方法を具体的に述べていきます。

3章「**時間をムダにしない勉強のはじめ方**」では、これから勉強をはじめ、あるいは勉強が三日坊主で終わってしまうという人を主に想定し、勉強にかける時間をムダにしないよう、長続きさせるための方法論を述べていきます。

4章「**『流行り』や『常識』は非効率のもと**」では、「それは本当に効率的なのか？」という視点から巷で流行る処世術について検討していきます。

仕様上、やや過激に書いてありますが、その論旨を汲み取っていただければ幸いです。

5章「**伸び悩みを解消する時間の使い方**」では、ある程度勉強を続けているが伸び悩んでいる。あるいは今以上に効率を高めたいと悩む方を想定し、マナーを打破し、もっと時間を活かし、一歩先に進むためのアイデア、方法を解説しています。

ただ、これらはあくまで私が実践してきた方法なので、自分に合うと思えば採用してもらい、自分には合わないと思うのであれば参考程度にいただければと思います。

重要なのは本書の内容を受け、自ら考え判断し、どう結果に結びつけるかだと私は考えています。

今本書を手に行っている方の中には、明日どうなるかわからないという現代社会に、漠然とした不安を抱えている方も多いのではないのでしょうか。

本文で詳しくお話ししますが、実は私が勉強をはじめた直接的なきっかけも「不安」でした。

ただ、働きながら試験勉強をしてきて思うのは、勉強をすればただ身になっていき、それは決してムダにはならないということです。

しかしそれも、やり方を間違えたまま勉強を続けるのでは結果を出す前に挫折してしまいます。

費やした時間、労力、お金、それらすべてを水泡に帰すのは非常に惜しいことだと思います。

本書から、ぜひそのエッセンスだけでも吸収していただければと思います。

佐藤 孝幸